

論文審査の要旨

報告番号	修 第 1312 号	氏 名	安藤 美穂
論文審査担当者	主査 上條 竜太郎 副査 富田 真佐子 副査 榎田 めぐみ		
(論文審査の要旨)			
<p>現在、我が国は、超高齢社会に突入し、歯科医療の分野でも訪問診療の需要が高まり、多くの歯科衛生士が歯科訪問診療に関わることが予想される。しかしながら、全国の歯科衛生士養成校でも、カリキュラムとして歯科訪問診療実習を導入している例は少ないことを審査で述べた。そこで、A大学歯科衛生士専門学校では、トライアルとして2015年度より、歯科訪問診療に歯科衛生士学生が同行することを開始し、今回の研究では、歯科訪問診療同行実習に対するアンケート調査ならびループリック評価を行い、実習前後の歯科訪問診療に対する学生の意識を比較検討することとした。</p> <p>研究対象者は、2018年度の前期実習に参加した38名の学生とし、同行実習の前後に、5段階評価で回答してもらった。また、終了後に学生および指導教員が、行動目標の達成度をループリック評価で数値化した。「歯科訪問診療に興味・関心がありますか」の質問に対する学生回答の平均スコアは、実習後で高い値を示した ($p<0.01$)。また、学生・指導教員のループリック評価は、すべての行動目標で、70点を超えていたが、学生の方に評価が高い結果となった。</p> <p>以上の結果より、歯科衛生士が行う在宅実習で、学生の歯科訪問診療に対する興味・関心が高まることが分かった一方で、ループリック表にて到達目標を提示することで、実習に対する学生の学習態度が変化することがわかった、と考察をしている。主査・副査の質問事項に於いて文献を用いた適切な回答が得られた。</p> <p>以上の審査結果から、本論文は学術的価値があり、修士（保健医療学）の学位授与に値するものと判断した。</p>			